

開催日時	会名		開催場所
2010年4月13日(火) 18:00~19:50	第10回 全体会		東医健保会館 3階 会議室
司 会	平成立石病院 福田慎太郎	書 記	南町田病院 橋本史子
配布資料	プログラム、分科会活動報告資料、第10回全体会アンケート、厚生労働省公表データを用いた分析		
出席者	17名		
テ ー マ			
第1部 総会	議案1) 運営委員改選 議案2) 運営委員長選出		
第2部 分科会活動報告			
第3部 講演会	「厚生労働省公表データを用いた分析」		
経 過			
第1部 総会	18:00~18:15		
議案1、運営委員改選			
DPC分科会より永寿総合病院 西田龍平氏が加わり、今年度は以下9名となった。			
荒川直子 (永生病院)	肥田美佐子 (横浜労災病院)		
佐藤達也 (板橋中央総合病院)	村井はるか (河北総合病院)		
玉置薫 (新葛飾病院)	山崎博光 (自衛隊中央病院)		
中島歩美 (練馬総合病院)	脇田紀子 (聖路加国際病院)		
西田龍平 (永寿総合病院)	※五十音順、敬称略		
議案2、運営委員長選出			
自衛隊中央病院 山崎博光氏にお願いすることが、満場一致で可決された。			
第2部 分科会活動報告	18:15~19:00		
①入門・基礎分科会			
*2009年度テーマ			
「病院機能評価総合版評価項目 Ver. 6.0 診療記録の管理について」			
「診療情報管理に関する日常の業務・疑問等についての意見交換」			
*具体的成果			
・病院機能評価 Ver. 6.0 「4.15.1&2」 製表化 (製表の方法/項目の抽出法など)			
・病院機能評価 Ver. 5.0 取得 (1施設)			

- ・施設見学…各自施設との比較検討
- ・東京都による立入検査に関する情報収集
- ・退院時サマリー・組織図・診療記録管理規定・診療記録管理委員会規定等、他施設と比較し再考を行うことが出来た。
- ・意見交換をきっかけに、日常業務改善が出来た。
- (カルテ編綴・退院時サマリー回収などの量的点検、コーディング方法、内規、マニュアル作成、サマリー形式)
- ・指導と監査について（指導と監査の違い、診療記録に記載不備に修正依頼、事前準備、指導における指摘事項）
- ・診療記録が適切に管理されているか各施設間の比較により、物の管理・情報の利用についての改善のヒントとなった。
- ・発表のための、資料作成・準備・方法・要領を学ぶことが出来た。
- *2009 年度達成目標
- ・病院機能評価総合版評価項目の診療記録・情報に関する項目別に自院・他院の状況を把握し、問題点・改善点などをあげ、全体の施設の状況を把握した上、参加者で解決の方向（方法）を議論できた。
- *2010 年度テーマ
- ・病院機能評価総合版評価項目 Ver. 6.0 診療記録の管理について
- ・診療情報管理に関する日常の業務・疑問等についての意見交換
- ②統計分代会
- *2009 年度テーマ
- 「伝統的に作成している統計を通じて、データ解釈を統計処理のスキルアップを目指す」
(最新『診療情報管理マニュアル（医学通信社）』を参考にする)
- *具体的成果
- ・大きな視点から細部へと、順々に見ていくことが重要である。
- ・統計データの受け取り手の関心に柔軟に対応できることが必要である。
- ・時系列で見ることで、推移が分かる。継続的に行うことも重要である。
- ・全体像を確認してから、注目すべき部分の詳細を調べる。
- ・テーマを決めて集計していくことも必要だが、様々な切り口からデータを眺め、テーマを絞ることも有益である。
- ・人事データや財務データを組み合わせていくことで、経営を考慮した分析にもつながるのではないだろうか。
- *2010 年度テーマ
- ・自院のデータを利用して
 - 企画案やストーリーを作成して分析してみる
 - 疾病統計から代表的疾患を抽出する

- ・統計初心者向けウェルカムセミナーも計画中
- ・パソコン・エクセルやアクセスなどの、スキルアップも行っているの、ご参加ください。

③DPC 分科会

*2009 年度テーマ

- ・「DPC 請求における ICD コーディングの質の向上」
— 医療資源病名において「.9 コード（詳細不明コード）」を可能な限り使用しない。

*具体的成果

- ・DPC 分科会に参加している 6 施設より提出されたデータをもとに「.9 コード」の割合を分析。
- ・分析結果より、5 症例以上あったものをピックアップ。

（2 型糖尿病・加齢性白内障・細菌性肺炎・肺炎・急性虫垂炎・鼠径ヘルニア 等）

・しかし、正しくコーディングを行っても「.9 コード」になる病名があるため、一概に「.9 コード」がいけないとは言えないことが分かった。

（鼠径ヘルニア・2 型糖尿病・急性虫垂炎 等）

- ・詳細不明コード対応方法として、糖尿病・肺炎・心不全に関して、病名フォーマットを利用。
- ・フォーマット利用のメリット — 視覚的にチェック方式にすることで、医師の手間を省く。

医師との直接対応により、コミュニケーションを図る。

*詳細不明コードに関する今後の活動

- ・糖尿病・肺炎・心不全等の詳細不明コードの割合は減少傾向と推察 — 今後も継続検討する。
- ・「.8 コード」への振分についても、可能な限り詳細コードへ振分けるための方法について検討
- ・平成 21 年度厚労省公表データに基づいて新たに検討

*2010 年度テーマ

- ・詳細不明コード等について引き続き検討
- ・機能評価係数Ⅱの評価等について勉強・検討
- ・機能評価係数Ⅱ以外の平成 22 年度改定された事項について、それぞれ大きく検討

第 3 部 講演会 19:00~19:50

「厚生労働省公表データを用いた分析」

講師：東京医科歯科大学大学院 医療政策学講座

医療情報・システム学分野教授 伏見清秀 先生

平成 22 年度 DPC 改定の概要を中心に、DPC 医療機関機能評価の現状と今後について、DPC を用いた医療の評価等お話いただいた。

DPC 改定の概要では、今年度の改定が外来+0.31%、入院+3.03%という入院に手厚い改定となった事、手術料の適正な評価について詳しくお話いただき、機能評価係数Ⅱについてもお話があった。

また、DPC データを用いた医療の評価については、診療プロセス分析について E・F ファイルを用いて医療標準化や効率性の分析などを行えることなども教えていただいた。

会場からの質問では、機能評価係数Ⅱのうち複雑性指数についてあり、自院の治療レベルをあげるには、長期的な取り組みが必要だとお話をいただき、実りある講演となった。

次回テーマ

事項	第 11 回 全体会	担当者		期限	
次回開催日 (予定)	次回開催場所 (予定)	議事録作成日	議事録作成者		
7 月頃	東医健保会館	2010 年 5 月 3 日	南町田病院 橋本史子		